

第2項 水域利用の現状

舟運

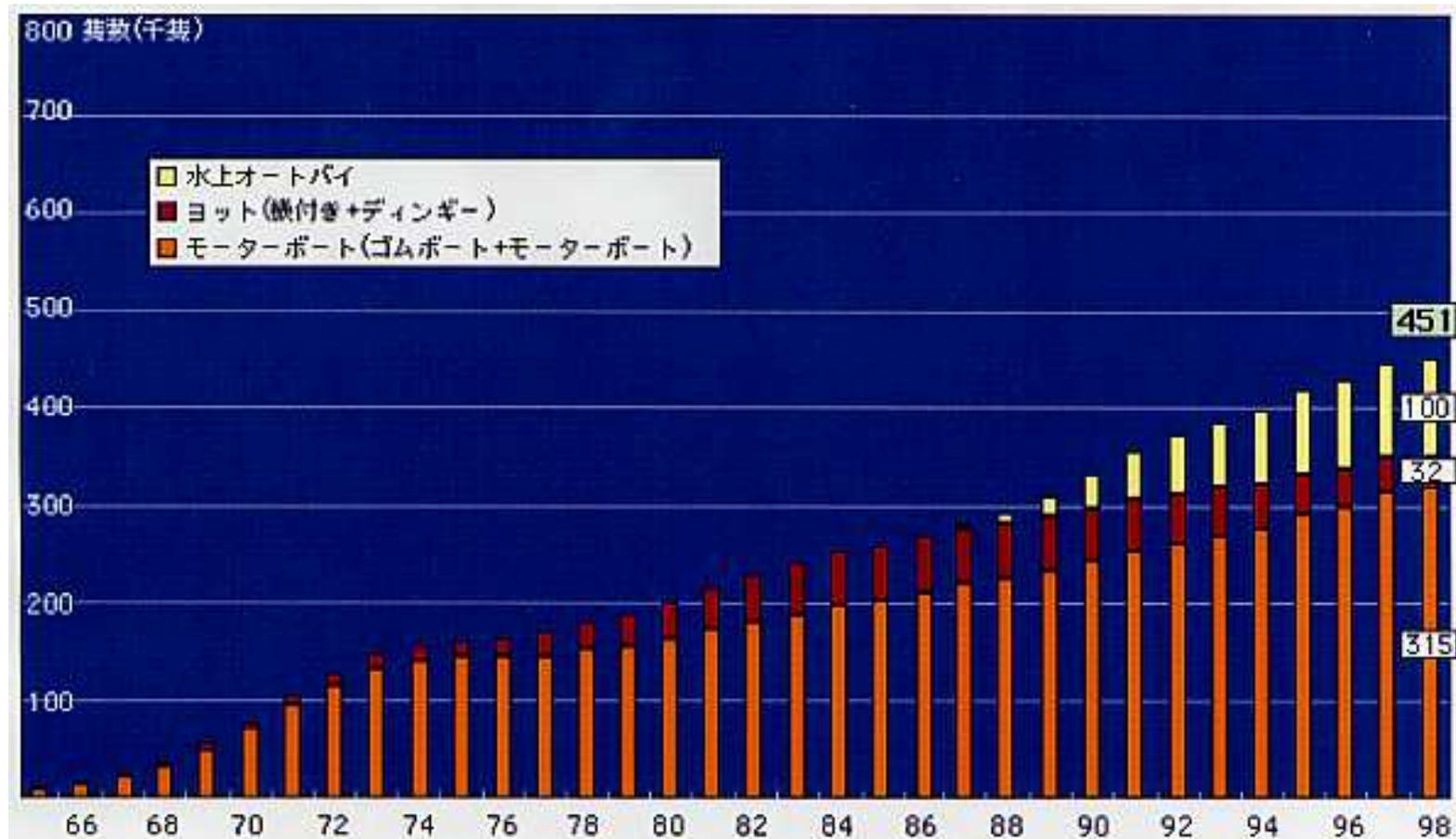
江戸～明治時代にかけて、紀の川は奈良盆地と和歌山平野を結ぶ交通上の動脈として重要な役割を果たしていました。

江戸時代には、和歌山城下から約50km上流の橋本まで、「川上船」が往来していました。



現在、舟運は行われていません。

水上オートバイの現状 (国内におけるプレジャーボート数)



出典：(財)日本海洋レジャー安全・振興協会及び日本小型船舶検査機構の資料に基づき運輸省海上技術安全局船用工業課にて作成

水上オートバイの現状

(水上オートバイ等の利用実態調査)



水上オートバイの現状 (現在の問題点)

水上オートバイの活発な利用に伴い、騒音、ゴミのポイ捨て等の苦情、釣り、ジョギング等、他の自由使用者への支障が発生。